

平成三十一年度 岡山大学 国語

問題一

問一	ア	肥沃	イ	輝	ウ	概念	エ	一笑	オ	蓄積
問二	<p>農耕牧畜という文明的な生き方をするには、種まきの時期や雨期と乾期の季節の訪れを知る正確な手がかりが必要であったから。</p>									
問三	<p>規則正しい変化を繰り返す日と月の天のリズム。</p>									
問四	<p>北極星を中心とする円運動を描く星たちとは異なり、不規則な動きをする「惑星」は人間社会の「変事」を司る原因と考え、その不思議な力を生活の中に取り込もうとしたから。</p>									
問五	<p>文明を持つ共同体として、観察と考える力によって生き方に関するノウハウを蓄積していきながら、目に見えない未来における変化や変事に対応し順調に進みはじめたということ。</p>									

問題二

問一	<p>父が恭一を捨ててどこかへ行き、親子の仲が壊されてしまうのではないかという危険な予感に対する恐れ。</p>									
問二	<p>父の新しい彼女を褒めるようなことを本心を隠して口にしてでも、父と一緒に暮らしたいという切実な気持ち。</p>									
問三	<p>自分の置かれている状況を分かってはいるが、それを父や伯母に悟られては父との別れが一気に進んでしまいそうで嫌だから。</p>									
問四	<p>父が戻るはずのないことはわかっていたが、孤児にならないためには、一人バス停で長時間ずっと待ち続けているしかない状況。</p>									
問五	<p>父に捨てられたという事実を久美子から無邪気に指摘され、子供なりの矜持を持って張り詰めていた緊張の糸が切れたから。</p>									

平成三十一年度 岡山大学 国語

問題三

問一	ア	お出かけがあった時
	ウ	そのような無礼な人
問二	エ	申し上げたい
	イ	ございませんで
問三	<p>公卿が出会って礼節を尽くして牛車を止め、前駆の隨身たちが馬から下りたのに、未熟者ならいざ知らず、以長ほどの者が下りなかったから。</p> <p>「以長」は、前に行く人がたとえ牛車を停めたとしても、車の後方を向けてお通し申すようなふるまいを、「無礼」であると言っている。</p>	
問四	<p>「あの御方」は「以長」の言動を間違ってはならず、古来の本当の礼節に通じている侍の言動であると高く評価している。</p>	

問題四

問一	五	言	律	詩
問二	⑤			
問三	世の中に古くからの友人はすっかりいなくなってしまった。			
問四	よくいくばくぞ			
問五	<p>自然はいつまでも続くが、私の古くからの友人はみな死んでしまった。時の流れを止めることができなかったならば、私は後どれほど生きることができようかという、もの寂しい思い。</p>			